

◆資本金の増加

アジア経済研究所は調査研究活動体制の整備および充実に伴い研究所の資金的基礎を強固にするため、5月30日本年度の政府出資金1億円の払い込みを受け、さらに別途の民間出資金募集に対し6月30日募集金額3000万円の払い込みを受けたので、ここに研究所の資本金は2億4005万円に増加した。

◆昭和36年度事業計画、予算、資金計画

昭和36年度の研究所の事業計画、収支予算および資金計画が最終的に確定した。収支予算の概要はつぎのとおりである。

資 本 勘 定 (単位:円)

(支 出)		(収 入)	
建 設 費	392,000,000	前年度繰り越し金	81,000,000
備 品 費	7,537,700	出 資 金	130,000,000
図 書	15,000,000	借室権利金返還金	2,653,440
翌年度繰り越し金	173,653,440	損益勘定から受け入れ	374,537,700
合 計	588,191,140	合 計	588,191,140

損 益 勘 定

(支 出)		(収 入)	
管 理 費	103,892,500	出資金運用利子収入	13,424,000
資料活動事業費	5,824,800	国庫補助金	224,089,000
国内調査事業費	30,302,000	繰越国庫補助金	9,127,068
海外調査事業費	20,832,000	賛助会費	25,000,000
広報活動事業費	25,614,000	機械工業振興資金	3,000,000
海外派遣員派遣事業費	53,084,000	雑 収 入	962,000
資本勘定へ繰り入れ	374,537,700	寄 付 金	352,000,000
予 備 費	1,388,000		
前年度からの繰り越し	12,127,068		
合 計	627,602,068	合 計	627,602,068

◆午 餐 会

研究所は7月13日、工業クラブにおいて帰朝中の駐インドネシア大使黄田多喜夫氏を招き、官界、財界、関係諸機関の約60名が出席して、午餐をともにしつつインドネシアの現状についての講話をきいた。

◆第3回評議員会の開催

午餐会にひきつづき同クラブにおいて第3回評議員会を開催し、昭和35年度の事業報告および決算報告を行なった。出席者は日本鋼管株式会社社長河田重氏ほか40名で盛会であった。

アジア経済に関する論文募集

アジア経済研究所ではアジアに対する若い世代の興味と関心を喚起し、あわせてアジア研究の新人の発見とその育成を目的としてアジア経済に関する論文を募集してきたが、今年度も下記の要領で論文を募集することにした。

論文題目……「後進国と先進国」

主 催……アジア経済研究所

後 援……読売新聞社

協 賛……通商産業省、外務省、大蔵省、農林省、経済企画庁、文部省、経済団体連合会

応募資格……満32歳未満のもの

論文枚数……400字詰原稿用紙30枚

締 切……昭和36年8月31日(木)

あ て 先……東京都中央区銀座東6-7

(木挽館新館2階)

アジア経済研究所広報出版部

審 査……(1) 論文審査—9月8日(金)発表
(読売新聞紙上)

(2) 口頭試問—9月21日(木)

賞 金……1等(1編)5万円、2等(1編)3万円、3等(1編)2万円、佳作(2編)1万円

◆「アジア経済」に関する統計・資料のゼミナール

アジア経済研究所はきたる8月3日、4日の両日、東京商工会議所小講堂において「アジア経済」に関する統計・資料のゼミナールを開催する(午後6時から9時まで)。題目および報告者はつぎのとおりである。

8月3日〔資料〕司会(図書資料部長 岸 幸一)「東南アジア諸国の最近の開発計画に関する文献の解説」(図書資料部所員 原田義信)、「東南アジア諸国の主要雑誌の解説」(同 阪田貞宜)、「東南アジア諸国の主要新聞の解説」(図書資料部 萩原宜之)。

8月4日〔統計〕司会(調査研究第二部所員 大泉悦郎)、「東南アジアの貿易統計」(通商産業省大臣官房調査課長 有馬駿二、経済企画庁調整局貿易為替課 吉岡雄一)、「東南アジア統計の概要」(行政管理庁統計基幹局統計審査官 北川 豊)。

◆近 刊 案 内

研究所最近の出版物としては、アジア経済研究シリーズ第10集『アジア特産物の国際需給』(橋本秀一)、第12集『欧米における東南アジア研究』(板垣与一)が刊行され、調査研究報告双書第8集『マラヤの華僑と印僑』(松尾弘ほか)、第11集『パキスタンの労働事情』(松尾均ほか)、アジア経済研究シリーズ第11集『中国農業の社会主義改造』(佐藤慎一郎)が近く刊行の予定である。